～じびか歳時記「9 月の雨」Vol59 号～

まだ残暑も厳しい候ですが、今年も暑い夏でした。日が沈むのが早く夜明けも遅くなり、少し夏を惜しむ気持ちもないではありません。季節は明らかに秋冬に向かっています。9 月の雨はもの悲しさや寂寥（せきりょう）感があり、日本人の感情の豊かさをはぐくみ、昔から「秋の雨」として詠われてきました。職員にも少し難しいお題でしたが「9 月の雨」でエッセイを書いてもらいました。

高橋順子著「雨の名前」から多くを引用して秋の雨について考えてみます。
「秋の雨に濡（ぬ）れつつ居（を）れば　賤（いや）しけど　我妹（わぎも）が宿（やど）し思ほゆるかも」大友利上（万葉集 1573 番）
【秋雨に降られていると侘（わび）しいなりに、あなたの家が恋しく思われます】

「秋の雨にしをれて落つる桐の葉は　音するしもぞ寂しかりける」西園寺実衡女（さねひらのむすめ）『雨の名前から』
【風景が枯れ色を帯びている中に、霧にまごうような細かな雨がいつ止むともなく降りつづけるのは、何とも寂しいものである。もう秋は深まっているのだろう。桐の葉が静寂を破って時折カサっと落ちる】

秋の雨の名前を若干の解説を交えて紹介します。

- 秋驟雨（あきしゅうう）：秋のにわか雨。夕立などをいう。驟雨は夏のものだが、これに「秋」を冠してみると、どこか寂しい風情がある。
- 秋微雨（あきこさめ）：霧のように細かい雨。夏の日差しにさらされた大地にしみいるような雨。
- 通草腐（あけびくさ）し：2,3 日雨が続くと山のアケビ腐ってしまうところからいう。
- 洗車雨（せんしゃう）：陰暦 7 月 6 日の雨。牽牛が織女との逢瀬のために乗る牛車を洗う水が、雨となって降るという言い伝えがある。
- 霧時雨（きりしぐれ）ちょっと降ってはすぐに止む時雨のような霧雨
  「霧しぐれ富士をみぬ日ぞ面白き」（芭蕉）【この度はあいにくの雨で富士の霊峰を拝めず、凡人ならば「残念」と過ぎるところを、俳人芭蕉は雨もまたよし、としたたかに裏返してみせる。



＜イグ・ノーベル賞＞9 月 4 日に発表されたイグ・ノーベル医学賞は、はなの正しいかみ方を実験で特定した旭川医科大（北海道）の故・ 海野徳二名誉教授が受賞されました。これで日本からの受賞は 20 年連続となります。
片側の鼻の穴を押さえながら強くゆっくりかむと、効率よく空気を吐き出せることを突き止めました。我々耳鼻科医が患者に指導するバイブル的研究でした。
また、鹿児島大学耳鼻咽喉科との共同開発で、鼻うがい器「ナザピュア」が発売されています。副鼻腔炎や花粉症の方にはお勧めです。アマゾンでご購入下さい。

今年の夏は酷暑を強く感じました。９月に入り、一雨ごとに涼しくなることを期待するばかりです。

先日、宮崎経由で大分に行く機会がありました。途中、線状降水帯が発生し高速道路は通行止めになり６時間半かかり大分市内に着きました。９月の雨に振り回された出来事でした。

普段は雨が降ると少し憂鬱な気分になりますが、夏の終わりに降る雨は降るたびに気温が下がり、涼しい季節へ移行していくのでうれしい気持ちになります。

今回のお題の９月の雨、何書こうかと悩みネットで調べてみたら、1977 年発売の太田由美の九月の雨が最初にヒット。歌詞に September rain♪が何度も出てきました。皆さんご存知ですか？

最近、雨の日が続き全国あちこちで水害が起きています。道路が崩れ、床上浸水などのニュースを見ると自然の力ほど怖いものはないなあと、つくづく感じます。

９月頃から雨が降るたび涼しくなり、秋の訪れを感じます。

地球温暖化のせいか九州より関東方面の雨が多くこのまま大丈夫か心配です。９月に入り関東方面の雨災害ニュースに心痛みます。

９月は子供の体育祭があります。毎年この時期は天気予報に一喜一憂です。今年は雨予報でしたが、当日は晴れ！高校最後の体育祭を観ることが出来ました。

９月の雨は台風が来る前触れのような気がするので、少し苦手です。雨に加えて、９月は寒暖差が激しくなり、風邪を毎年引いているような気がするので、体調管理に気を付けたいです。

私は雨は苦手です。でも父は趣味で農業をしていて、最近雨が降らないといっていたので、雨が降れば野菜が育つのでうれしいと思います。

９月になると、雨のあとに秋の気配を感じることがあります。朝晩は涼しくなってきましたが、日中はまだ暑く、服装選びに少し悩む季節です。秋の涼しさと美味しい食べ物を楽しみに、季節の変わり目を過ごしたいです。

秋雨前線や台風が重なり、６月の梅雨の時期より９月から 10 月の方が多いようです。